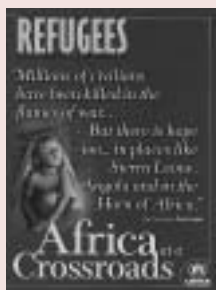


From “Refugees” Magazine

英語版「Refugees」誌は、UNHCR
ジュネーブ本部広報課が発行する
季刊誌（変形A4版・32ページ）です。
お読みになりたい方はホームページ
（www.unhcr.or.jp）をご覧ください。

「難民」 誌から

世界難民の 数字でみる



「Refugees」誌 通巻131号より

前号では世界全体の^{すう}趨勢を見ましたが、今号はアフリカに焦点をあてました。

■アフリカ大陸全体には、推定1500万人の難民、国内避難民などがいる。UNHCRはこのうち約460万人を援助しており、そのための2003年の通常予算は約4億ドル。

■今年、アフリカにおけるUNHCRの援助対象者は、昨年の420万人に較べて多少増加した。ピーク時の1994年には700万人を支援していたが、その多くは同年ルワンダで起きたジェノサイド（大量虐殺）から逃れてきた難民だった。

■2002年、100万人以上が新たに故郷から逃れたが、一方で、UNHCRの援助で帰還した難民と国内避難民も推定60万人にのぼった。アンゴラでは、国内避難民100～150万人が自力で帰還した。

■アフリカで多くの難民を出している国

①ブルンジ	57万人
②スーダン	49万人
③アンゴラ	42万1000人
④コンゴ民主共和国	39万5000人
⑤ソマリア	35万7000人

■アフリカで多くの難民を庇護している国

①タンザニア	69万人
②コンゴ民主共和国	33万3000人
③スーダン	32万8000人
④ザンビア	24万7000人
⑤ケニア	23万4000人
⑥ウガンダ	21万7000人

■植民地時代の終わり以降、アフリカは世界の中でも最も長く悲惨な紛争の舞台となっている。スーダンでは、1956年

の独立以来、イスラム教徒中心の北部と、アニミスト（精霊信仰）とキリスト教徒中心の南部との間で、衝突が繰り返されてきた。これによる死者は推定200万人、国内避難民は400万人、近隣諸国へ逃れた難民は50万人にのぼる。

■アンゴラも1960年代以来、紛争に苦しんできた。死者は少なくとも100万人、国内避難民は400万人、難民は50万人にのぼる。

■1998年に始まったコンゴ民主共和国（旧ザイール）での内戦は、アフリカ初の「世界大戦」とされている。6か国の軍隊が関与し、300～500万人が戦闘や病気、栄養失調で死亡したといわれる。200万人が近隣諸国に逃れ、一般市民30万人が難民となった。

■西アフリカ地域全体は、1989年に再燃したリベリアでの内戦によって不安定化した。リベリアでは人口の約70%にあたる推定240万人が故郷を追われ、15万人が死亡。その隣国コートジボワールは、かつてアフリカで最も安定した国のひとつだったが、2002年の内戦で約80万人が国内避難民となり、40万人が国外に逃れた。

■ブルンジは世界で最も貧しく小さな国のひとつだが、10年におよぶ内戦で20万人以上が死亡、総人口の14%近くにあたる約100万人が故郷から逃れた。

■政治的には明るい進展もあった。アンゴラでは、2002年の和平合意の調印後、避難民の帰還が始まり、そのペースは今後さらに加速するとみられている。ブルンジとコンゴでも、危うげながら和平合意が調印された。シエラレオネでは、10年続いた内戦に終止符が打たれ、安定しつつある。

■戦争と難民化は、経済と社会の混乱によって一段と悪化している。サハラ以南のアフリカでは、「絶対的貧困」状態の人口が今後約15年間で3億1500万人から4億400万人に増加するといわれ、そうなるアフリカが世界の「最貧地域」となる。

■アフリカでは人口の半数が1日1ドル以下で生活し、そのうち清潔な飲み水を手に入れられる人は、半数にも満たない。また、毎年1歳前で死亡する乳児は、200万人を超える。

■エイズ感染者は多くの国で伝染病のように広がり、2001年には200万人以上がエイズで死亡した。800万人がマラリアや、はしか、結核、下痢を伴う疾患で死亡した。

難民とは

戦争や迫害から逃れるために母国を離れた人々。国内避難民とは、難民と同様の理由で避難したものの、自国内にとどまっている人々をいう。UNHCRは世界中で約1200万人の難民を援助しているほか、1990年以降国連事務総長の要請や総会決議によって一部の国内避難民にも援助を行っている。